

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

社会科学 No.4

医療とジェンダー —— 女性医師・患者の性差・医学研究のジェンダーバイアス

★ 清光学院の講師は、医療社会学・ジェンダー医学を専門とする大学教員です。医学研究におけるジェンダーバイアスの問題・女性医師のキャリア問題を研究者として深く知っており、その経験がこの講座の根拠になっています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医療とジェンダーを問う小論文

「医療現場における男女の問題を論じよ」という小論文は医学部で頻出である。女性医師の労働環境・医学研究のジェンダーバイアス・患者の性差を具体的に知っている受験生は、深みのある論述ができる。

② 医師のキャリア・ワークライフバランスを問う問題

「女性医師が働き続けるためには何が必要か」という問いは医学部面接の定番である。ジェンダー問題の構造を知っている受験生は、個人の努力論ではなく制度的解決策を提案できる。

③ 「多様性と医療」型の問い

「医療現場でのダイバーシティはなぜ重要か」という面接質問に、ジェンダー医学の視点から答えられる受験生は、試験官に社会的視野の広さが伝わる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
医学部全般（小論文）	医療とジェンダー・多様性を論じる問題	ジェンダー医学の知識が論述に具体性と深みを与える
医学部推薦・総合型選抜（面接）	「女性医師・ワークライフバランス」型の問い	制度的問題の理解が具体的な提案を可能にする
看護・医療系学部（全般）	医療職のジェンダー問題	性差医学の知識が医療職全般の問題理解を深める
理学部・工学部（女性研究者問題）	STEM分野のジェンダーバイアス	医学研究のバイアス問題がSTEM全般に応用できる

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「女性医師が増えることは良いことだと思います」という答えは採点者には「構造的理解がない」と映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）医学研究のジェンダーバイアスを具体的に説明できる、（2）女性医師のキャリア問題を制度的観点で論じられる、（3）面接で医療とジェンダーを多角的に語る、という変化が起きる。

清光学院の講師陣は、関連する入試問題で「表層的な答案」と「深い理解を示す答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。